

フューザブル™ コリウス

チョコレートシンフォニー、アンダー・ザ・サン

学名: *Solenostemon scutellarioides*

マルチペレット粒数の目安: 31-32 粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を用いて、pH を 5.5 から 5.8 の範囲で、初期の培地中の養分は中庸(EC 値: 0.75mS/cm)に維持する

播種

288 穴、105/128 穴、あるいはそれよりも大きなセル容積のトレイを用いる(ただし、105/128 穴以上のトレイサイズを推奨)。はじめに培地を均してから種子をセルの中央に置く。パーミキュライトで軽く覆土する。播種後は十分に水をかけてペレットを完全に融解させる

ステージ 1 - 発芽には 4,5 日を要する

地温: 22 から 24°C

光条件: 光は不要

水分: 培地はやや湿潤の状態(level 4)を維持して、溢れるほど過湿にはしない

湿度: 幼根が発生するまでは相対湿度を 95%+で維持

留意点: フューザブルズ(コリウス)は、発芽期間中は培地中の塩類(とくに高いアンモニアに対して)に反応しやすい性質を有する。アンモニアのレベルは 10ppm より低く抑える

ステージ 2

地温: 22 から 23°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: 培地内での根の生育を促すため、水分を少し下げる(level 4 から 3)

肥料: レート 1(100ppm(N)、EC 値が 0.7mmhos/cm)で、リン酸分の低い硝酸態肥料を用いる。施肥の前後は真水を与え、かん水の 2,3 回に一度肥料を与える。かん水はできるだけ早い時間帯に行い、夕方まで葉に水滴が残らないようにする。培地の pH は 5.5 から 6.2 の範囲を、また EC は 1.0mS/cm 以下を維持する

ステージ 3

温度: 20 から 21°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.) まで可能

水分: 水やりの直前までは培地の表面が明るい茶色に乾くくらいまで、培地を乾燥させる(level 2)。ただし根の生育に影響が出るほど極端な乾燥は避けながら、わき芽の生長を制御する。培地は適度に感想と適度に湿潤(level 2 と 4 の間)を循環的に繰り返す

肥料: ステージ 2 と同じ肥料の濃度をレート 2(100 から 175ppm(N)、EC 値が 0.7 から 1.2mmhos/cm)に上げる。培地は、pH は 5.5 から 5.8、EC の値は 1.0 mmhos/cm(2:1)を維持する

矮化剤: 基本的に矮化剤は不要。各プラグセルの中で発生する、複数の苗どうしの競争によって自然な生長制御がはたらく。必要であれば、コリウスには A レスト、B ナイン、ボンザイなどでそれぞれ効果が確認されている。使用にあたってはラベル表示を遵守する

※ 可能な限り、温度差による DIF の利用を心がける。とくに日の出後の 2 時間は丈の制御に効果がある

ステージ 4

温度: 15 から 18°C

光条件: 最高で 53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで可能

水分: 上記ステージ 3 と同じ

肥料: 上記ステージ 3 と同じ

鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ

15 から 20cm(1 本植えに適したサイズ)または 25 から 30cm のコンテナ/バスケット(3 から 5 本植え向き)

培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用する。pH は 5.5 から 6.0、初期の培地中養分は中庸(EC:0.75mS/cm)が適正

温度

昼間温度: 18 から 24°C

夜間温度: 15 から 18°C

光条件(照度)

53,800 ルクス(5,000 f.c.)を超える場合は適宜遮光する

かん水

過剰なかん水、極端な乾燥ともに避ける

肥料

フューザブルズ(コリウス)はあまり多量の肥料を必要とはしない。過剰な施肥は葉色の発色が鈍り、葉がバランスを欠いて大きくなってしまいますので注意する。リン酸分が低くカリウムの高い、硝酸態肥料を主体にレート 2(100 から 175ppm(N)、EC 値:0.7 から 1.2mS/cm)の濃度で与える。用土の EC 値は 1.0 mmhos/cm(2:1)を維持する

矮化处理剤(PGR)

植物の生長を制御する場合は、まずは肥料やかん水による管理方法、または自然環境の利用を検討し、化学的な矮化处理剤はその後で、必要に応じて使用することが望ましい。アンモニア態窒素系肥料の利用を最小限にすることが、ステムの徒長回避につながります。フューザブルズ(コリウス)は、昼間と夜間の温度差を利用した DIF によく反応する植物なので、ネガティブ(マイナス)DIF で丈の伸長抑制に効果があります

矮化处理剤を用いる場合は、B ナインで効果が確認されています。苗を移植して 2、3 週後に、2,500 から 5,000ppm で処理する。必要に応じて繰り返す

ピンチ

ピンチは不要

スペーシング

となりの株どうし、葉が触れはじめたらスペースをとる

平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴トレイ): 約 4 週
播種から移植まで(105/128 穴トレイ): 5 から 6 週
移植から開花まで: 6 から 8 週

播種から出荷適期まで:

コンテナ サイズ	移植 本数	温暖期の 生産 (20℃)	温暖期の 生産 (20℃)
15 から 20cm ポット	1 本	10 から 12 週	9 から 10 週
25cm カラーボール、 バスケット	1 から 3 本	11 から 13 週	10 から 102 週
30cm カラーボール、 バスケット	4 から 5 本	11 から 13 週	10 から 12 週

予想される一般的な障害等

病気: アルテルナリア、ボトリティス、バーティシリウムなどの細菌感染に注意

害虫: アブラムシ、ホワイトフライ、カイガラムシなどに注意

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてお使いください。生産物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに沿った正しい使用方法とるようにしましょう

注意点: EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合があります。